

### 3. 空港臨海部の将来像

#### 3.1 2040年の将来像

空港臨海部の目指すべき方向性を踏まえ、将来像を「多様な人々が交流・挑戦する“未来型創造都市”～世界へはばたく空港臨海部～」とします。

空港臨海部で働く人、遊びに来る人、創作活動をする人、海外から訪れる人など多様な人々が交流・挑戦し、伝統と最先端テクノロジーが融合することにより、新たな分野での起業・創業、多様な交通手段の実装など 2040年の未来において、新たな価値が生み出され、世界が注目する次世代の空港臨海部が形成されています。



図 3-1 2040年の将来像イメージ

また、空港臨海部の将来像のイメージ及び将来像の概念を都市構造図として、以下のとおり整理しました。

|  |   |   |
|--|---|---|
| <p>開発、生産、廃棄・再生産の全工程において、卓越した技術・能力を有する企業・技術者が交流・挑戦するとともに、工程の自動化が進み、高い付加価値と産業の継続性を生み出す場となっている。</p> | <p>都市部において貴重な自然資源(緑・川・海)やスポーツ・アート拠点として、余暇の充実や健康維持に役立つ、区民・働く人・訪れる人に親しまれるエリアとなっている。</p> | <p>公共交通や物流輸送の自動運転、自転車専用車線などが発展。多様な交通手段により、東京湾岸の物流幹線網の一翼や、内陸部との快適な交通網を担う。大規模災害時には復興を支える軸線となっている。</p> |
|--|---|---|

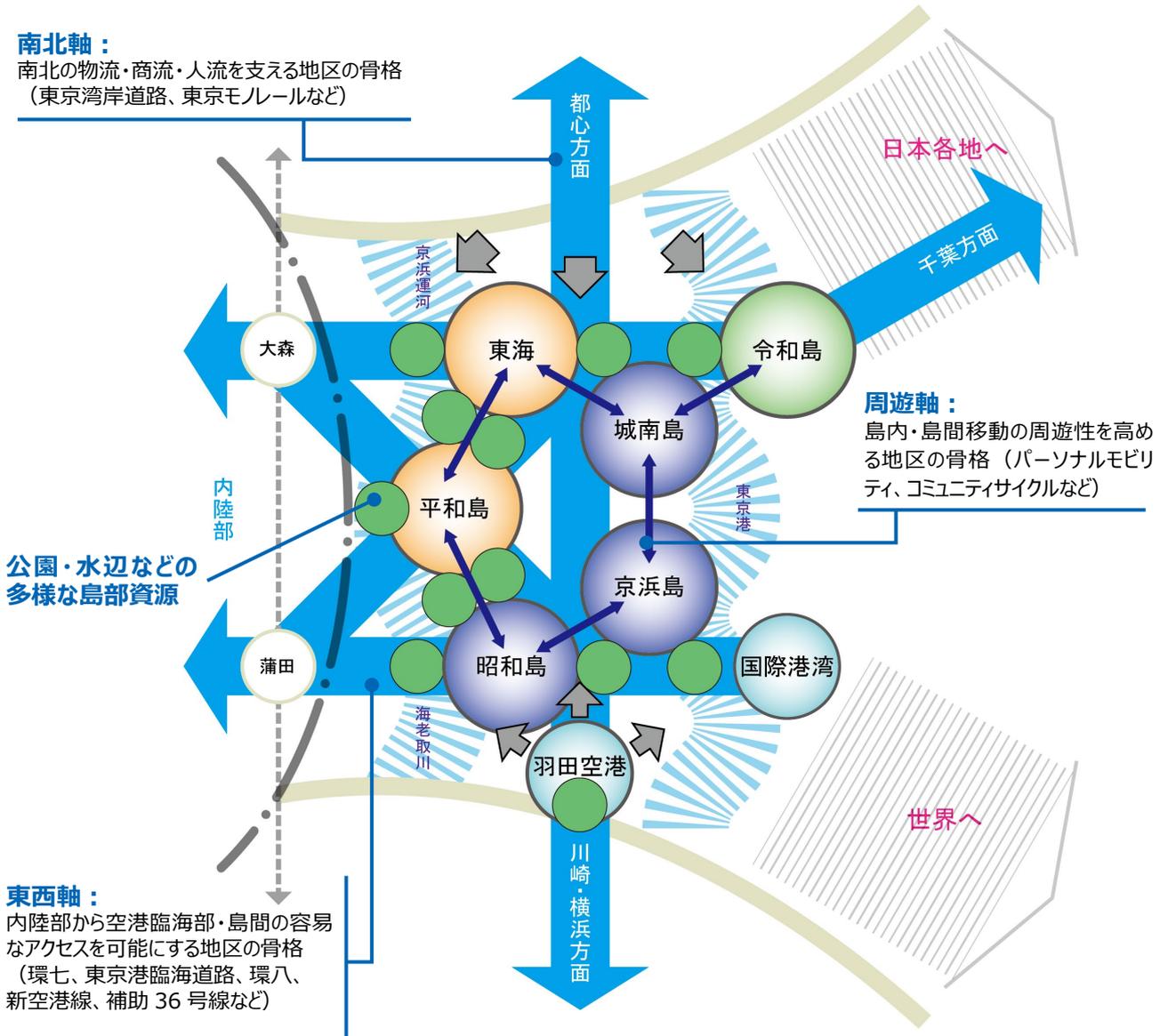


図 3-2 将来像の都市構造図

## 3.2 区民にとっての空港臨海部

現在の空港臨海部の使われ方・位置付けについては、下図のとおりとなっています。これに対して2040年には、就業環境としての魅力が高まり、就業先の有力候補となっていることや、水上交通も含め訪れやすく、区民の余暇の充実や健康増進に貢献していること、災害時には地域全体で安全を確保するための対策が打たれるなど、安全安心の面からも信頼性が高く、更に親しまれる地域となっています。

### 現在の使われ方・位置付け

#### 働く場

- 居住地に近く、区民の就業を支える場所の一つである。
- 工業専用地域に指定されている場所が多く、特殊な作業も可能。
- 六郷工科高校出身者などの就職先の有力な候補先ともなっている。
- 熟練工による技術が強みのものづくり産業が多数立地。



### 2040年の姿

- 交通アクセスの改善や憩いの機能など、就業環境の魅力向上が進み、現在の産業集積に加えて大手製造業や研究開発型企業、ベンチャー企業などが立地する、人気の就業先となっている。
- 職人の技術のDX<sup>19</sup>化でノウハウ継承がスムーズに進んでいる。

#### レジャー・スポーツの場

- バーベキュー場・キャンプ場のある城南島海浜公園や、平和島にある娯楽施設などは、区民の余暇活動の充実を図るうえで欠かせない施設となっている。
- 「大森ふるさとの浜辺公園」「平和の森公園」内のスポーツ施設、「大田スタジアム」「大森スポーツセンター」「ゆいっつ」など、区民スポーツ需要を喚起する施設が集積している。
- 地元協議会主体で、大田市場や島部企業とも連携したイベント、場内探検ツアーなどが行われている。



- 水上交通と陸上交通を十分に活用して、点在する施設を連携。様々な活動を丸ごと体験し、区民にとって余暇の充実や健康維持に役立つ環境が存在している。

#### 災害時の防災拠点

- 広大な公園（平和の森公園など）が多く立地。空港臨海部一帯は大規模火災における地区内残留地区に指定されている。
- 京浜トラックターミナル、東京流通センター、東京団地冷蔵、大田市場など、災害時の大量の物資供給も期待できる施設がある。
- 大田区のみならず、首都圏にとっても物資供給拠点として要の地域となっている。



- DCP（District Continuity Plan：地域継続計画）も策定され、地域全体で災害時に連携しあい、災害時の首都圏復興の要として機能している。
- また、身近な地域にある公園や水辺は、新型コロナウイルスのような感染症発生時の制限ある生活においては貴重な憩いの場となる。

図 3-3 区民にとっての2040年の姿

<sup>19</sup> デジタルトランスフォーメーション(Digital Transformation)の略称で、デジタル化により社会や生活の形・スタイルが変わること。「DX」の「X」は Trans を略した表記である。